

## <Moi+擬似関係節>型構文と脱従属化

小川 彩子

(関西学院大学研究生)

次の(1)-(4)はすべて<Moi+関係節>という表現を含んでいるが、従属節の先行詞であるMoiが主節の主語の同格として機能している(1), (2)とは異なり、(3), (4)の擬似関係節を用いた文には主節はなく従属節が単独で現れている。

(1) *Moi qui vous parle*, j'ai vu Napoléon une fois, à Chartres. (E. Zola, *La Terre*)

(2) (「僕」はマルトからの手紙をかつとなって読まずに破り捨てるが、マルトの写真が入っていたことに気付き、すぐに手紙を拾い集める)

*Moi si superstitieux et qui interprétais les faits les plus minces dans un sens tragique*, j'avais déchiré ce visage. (R. Radiguet, *Le Diable au corps*)

(3) (夫が寝室から出ようとしたと同時に、妻が朝食を手にドアを開けて入ってくる)

Mme Maigret paraissait, un plateau à la main, regardait le lit vide, puis le regardait, déçue, comme prête à pleurer. (...)

-*Moi qui me réjouissais de te servir ton petit déjeuner au lit!*

(G. Simenon, *Un Noël de Maigret*)

(4) (「わたし」は小さな王子に絵の下書きを見せる)

- Tes baobabs, ils ressemblent un peu à des choux...

- Oh!

*Moi qui étais si fier des baobabs!*

(A. Saint-Exupéry, *Le Petit Prince*)

従属節が単独で現れる英語表現の例として、前田(2015)は(5)をあげ、「これらの構文はもともと従属節であったものが、主節の省略によって独立節へと「格上げ」されたものであるとし、「このような従属節の独立節への発達は「脱従属化」(insubordination)と呼ばれる(Evans 2007)」と述べる。

(5) a. Like I care about that. (そんなこと知ったことか)

b. Well, if it isn't Miss Cooper? (おや、クーパーさんじゃないですか) (前田 2015)

本発表では、(3), (4)のような<Moi+擬似関係節>型の表現が、(i)脱従属化によって成立した表現であること、および(ii)その母体構文は(2)のような「譲歩・対立」を表す<Moi+同格的関係節>であるとの仮説を立て、通時的観点からの立証をめざす。そしてさらに、(iii)この脱従属化が「構文化」、「文法化」という、より広い現象の一環としてとらえられるということを各々の理論を考察することによって明らかにする。